グループホームまゆ
（別紙の2）

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に事業所の理念を掲示し、毎日朝の申し送り時、職員全員で唱和し、意識の徹底と実践が図れるよう努めている。	グループホーム独自の理念があり、毎朝申し送り時に夜勤者、早番、日勤者で唱和し、意識づけを行っている。玄関や居間の太い柱に理念が掲示されており、来訪者の目に入るようになっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃より、地域の皆様に事業所の位置づけを認知して頂けるよう、日々のあいさつに心がけ、地域の行事等に参加するよう心がけている。	昨年は職員や管理者が入れ替わったため余裕がなく、これから徐々に小・中学校、幼稚園やボランティアに働き掛け来訪を促す予定である。地区民生委員からも「お手伝いしますよ・・」と暖かい支援の言葉も寄せられている。地域のどんど焼きには入居者と職員が参加し、ホーム建物近辺の道路清掃には職員が参加している。	併設1階のデイサービスの利用者等との交流から始められ、少しずつ地域の人々との交流を進めていただくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域参加の掃除活動に入居者様と一緒に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の皆様のご意見を受け入れ、次回の運営会議には改善策が提示出来るよう努めている。	2ヶ月に1回行われている。家族、民生委員、区長、あんしん相談員、市介護保険課職員、地域包括支援センター職員の出席で現況報告をしている。避難訓練から防空頭巾の製作、ヒヤリハット事例、夏に向けての暑さ対策などその時々の事例を話し合い運営に反映させている。次回の会議日程もその場で決めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と日頃より連絡を蜜にとり、協力関係に取り組んでいる。	所長は赴任間もないことから大小に関わらず常に市の担当者と相談している。家族からの依頼で介護保険代行申請をしたり家族立会いでの認定調査もホームで行われることがある。市派遣のあんしん相談員も月1回来訪している。所長は今後「善光寺平グループホームネットワーク」へも参加予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていません。拘束をすることによる危険性を理解し、それに替わるものを検討し対応しています。	所長は「なぜ拘束がいけないのか」、尊厳や危険性などについても職員との話し合いの機会を多く持ち、周知徹底を図っている。現在、外出傾向のある入居者のために職員は見守り、関わりを持つよう心がけている。玄関には一般来訪者用のチャイムが取り付けられている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	入浴時等で身体の確認を行い、見過ごしや防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は学ぶ機会はありませんでした。現在後見人制度を利用されている方がおられるので、研修会等に参加していきたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時必ず読みあわせを行い、疑問点等を説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年4回開催して、ご意見を受けいる。次回の会議には対処方法等を報告している。また、ご意見箱を設置し、反映できるようにしている。	家族会は年4回（1月、4月、8月、12月）の予定で8月は隣接の地域密着型特定施設「七瀬の杜」と共同で夏祭りを予定している。1月の家族会では活発な意見が出、職員の名前入り顔写真が実現したり、預かり金を少なくして家族がホームへの来訪を多くするなど前向きな内容となった。訪問調査時にも遠方からの家族の面会があり、職員とふれ合う姿が見られた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている職員会議で報告し検討している。	1ヶ月に1回、会社からの伝達、事故報告の検証などを内容とする2・3階全職員参加の全体会議があり、その後、個別の利用者の話し合いを主とするフロア会議が開かれている。所長は職員に自己評価としての「私の考えるグループホームとは」という題で作文を課し、それを基に個人面接をし業務改善に繋げたいとの意向で現在進めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の自己評価シートの作成や管理者との面接等を実施している。また、職員の意見等を本部に伝えるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できるだけ、職員の希望する研修会が開催できるよう検討している。また、外部研修も職員全員が参加できるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同事業所内施設や長野市で行われている介護ネットワークに参加し情報交換している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族との事前面接から、今までの生活環境を把握し、入居後は不安のないようにできるだけ声がけを多くし環境を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前からご家族様の不安を聞くように努め、入所後は様子等を伝えられるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時の相談時、介護保険の制度の説明や今、利用できるサービス等を紹介しできるだけ協力できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の状態を常に共有し、関係を断ち切らない支援をしていきたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の希望されていること等をご家族に伝え、事業所ができることまたご家族がに協力いていただくことなどを調整し支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔ながらの行事の参加やご家族様や知人の面会を呼びかけている。	近所の人が漬物を送って下さり返礼の電話を職員がしている。家族とのお墓参り、お盆や正月の外出や泊りの入居者もいる。遠方から孫、甥や姪が訪ねて来る方もおり、誕生日には孫から手紙が来るという。家族と馴染みの美容院へと外出する入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの居室を行ききできるような関係づくりを支援したい。また、愛称の悪い方へは、席替えをしたりしてお互いに気分よく過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の在宅サービス等の相談・援助をおこなった。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から、何気ない一言やふとした時の言葉に着目し、その言葉が本人の主張と受け入れ検討している。	殆どの入居者は思いを表すことが出来る。本人の出る言葉から思いを把握するようにしている。声がけから笑顔が見られたり話の中からの表情で思いを察するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報を基本にし、状態確認をしながら、本人の話や家族からの情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中からその人の生活リズムを理解し、定期的に行うモニタリング時にその人の有する能力把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の考えや気持ちを日々の生活の中から聞き取り、担当職員を中心にさまざまな視点から意見交換を行い総合的に把握していきたい。	入居者や家族の意向を基に、居室担当者の意見、毎日記録している生活支援記録などを参考にして計画作成担当者によって作成され家族の承諾も得ている。見直しは6ヶ月を基本としているが、生活支援記録表から毎日が見直しで、状態に変化が見られた時には作り変えている。定期的に職員のローテーションを行い、全職員が全入居者を知ることが出来るようにと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や生活支援記録があるにもかかわらず、情報共有ができていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員の経験が浅く、柔軟な対応ができない。今後、職員研修等で改善して生きたい。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の受け入れがなかった。これからは、地域の受け入れを積極的に行っていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月２回の往診があり、状態変化時は、その都度連絡し対応していただいています。	入居時、本人、家族との話し合いで殆どの入居者はホームの協力医が主治医となっている。月2回の往診がある。家族付き添いでの通院が基本であるが、緊急の場合は職員が付き添うようにしている。デイサービスの看護師による健康管理も行われている。かかりつけの歯科医の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師不在のため、同事業所の看護師に協力を依頼している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時は入院病院に訪問し、状態の確認と退院後の指示を仰いでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度、居室で亡くなっていた方がおり、今後は検討や準備をするべきと考える。	1月に行われた家族会でもターミナルケアについての話が出た。職員は医師、看護師とも充分な話し合いを持ち、今後医療を必要としない場合の看取り介護についてホームからの指針を明示して、家族との話し合いをしたいとの意向がある。	明文化したものを提示し、入居者や家族へ十分説明されることを望みたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救命講習研修を受けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に実施する予定。また、非常食や防災頭巾等の準備をしている。	年2回隣接の地域密着型特定施設「七瀬の杜」と一緒に行い、1回は消防署指導で、1回は夜間想定で行っている。防空頭巾を入居者と作る計画もしている。多くの職員が人工呼吸やAEDの使い方、包帯の巻き方、救護などの普通救命講習を受け、また日本赤十字救急法救急員の資格を得ている職員もいる。スプリンクラーも設置されており、今後職員間の通信連絡網訓練を行っていく予定もある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の自尊心やプライバシーを損なわないような対応や言葉がけを行っている。	人格の尊重やプライバシー確保について職員は理解しており、個人情報の保護についても玄関に掲示されている。呼びかけは一人ひとりを尊重して苗字や名前に「さん」をつけてお呼びしている。排泄支援の場合も他の入居者のいる場所を避けて対応するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に合わせた言葉がけを行い傾聴に努めている。また、意思表示ができない方には表情を読み取り支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはさまざまであるが、その時々で対応し入居者のペースで対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は希望される方はなじみの美容院にいっていただいている方やなじみの美容師に来てもらい散髪して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは、時々一緒に行っている。また、入居者様と職員も同じ食事を一緒に食べている。	献立は栄養士によって立てられている。入居者は力量に応じてお手伝いしている。食事中「○○さんの刻んだ大根の煮物美味しいですね」と職員からの言葉がけがあり、若い男性職員からは親指を立てた「グー(good)」のサインが調理に携わった入居者に送られていた。誕生会には市販ケーキを手直しし皆でお祝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは栄養士の作成したものである。その人の状態に合わせ、刻み等で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず、歯磨き等の口腔ケアを実施しいている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り、排泄パターンの探り出しを行い、できるだけ失禁のないように努めている。	殆どの方はリハビリパンツを利用している。布パンツの方もおられる。これからは家族の方とも話し合いながら布パンツへ移行したいとの考えがある。昼間は排泄パターン表を参考に朝食の後、お茶の後など節目節目の支援に心がけている。夜間は巡視の時、トイレ誘導を行うようにしている。ポータブル使用者は現在のところいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認を行っている。排便につながる食材等の検討を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人希望に沿った入浴を提供している。	少なくとも2～3日に1回入浴している。希望があれば毎日入浴することができる。一人の職員での介助で脱衣から入浴、着衣まで支援している。入居者の声掛けにも工夫しており、若い男性職員が「バアーチャンこれからお風呂だけど入るかい・・？」と誘うと「ウンニャ・・家の風呂に入るよ・・」と軽快なやり取りがあり、お年寄りと孫の会話を聞いているようであった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の習慣が無く、体を休める機会がないので、コタツで過ごせる時間をもうけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は確認している。状態変化時は医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方にあったことを役割としてやっていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節感が感じられるように外出を計画しています。	訪問調査時は3月のまだインフルエンザの時期なので外出はひかえていたが食材の買出しに順番ででかけていた。暖かくなったら近くを散歩したり、おやき屋やお店にお金持参で出かけたいと入居者、職員共に春を待ち望んでいた。今年の初詣には善光寺に出かけた。年間行事計画を立て月1度位は外出したり、天気の様子を見て思いついた時に昼食持参で出かけたいと案を練っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持制限はしていないが、少額でお願いしている。買い物等の外出時、好きなものを買えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は、希望されれば事業所の電話を使用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった飾りつけを行っています。	居間、台所を中心に各居室がある。居間からの眺めは隣に7階建ての同じ法人のマンション、片方の窓からは低層の建物と住宅の屋根越しに遠くの山々が見え、街中のホームらしい雰囲気である。窓にはチューリップと蝶を飾り四季を感じさせる工夫がされており、壁にはどんど焼きや節分の写真が張り出されている。炬燵なども設置され、入居者もソファーにゆったりと座り若い男性職員と軽いタッチの話などで盛り上がっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやこたつを用意しゆったり過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家族に使い慣れたものを持参していただくように伝え、日常の湯のみやたんす等を用意していただいている。	各居室には洗面台が備わっている。ベット使用の方、床に直接布団を敷くようにして休まれる方などもいる。家で使用していた箪笥の上に写真や折り紙、作った花を飾ったりしてその人らしい居室となっている。各居室のベランダから非常階段に通じるようにもなっており、いざという時の備えにも配慮がみられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ職員が手をださず、できることは声がけをして行ってもらうようにしている。		